

美陵ガイドクラブ会報

〒583-8583 藤井寺市岡1-1-1(藤井寺市役所 6階 藤井寺市観光協会内)

TEL:072-939-1086 FAX:072-936-9777

URL:http://www.fujiidera-kanko.info/volunteer/volunteer_top.html

第6号 2010年12月



第31回 藤井寺市民まつりに参加して

9月19日(日)

☆メインステージ

「歌で綴る藤井寺」 みんなで大合唱！！

私たち観光ボランティアの会メンバーが、平素から市内で多彩な音楽活動をおられるグループの参加を得て、藤井寺にゆかりの曲を市民の皆さんと一緒に合唱しました。

総勢40名、ステージいっぱい出演でした。「藤井寺市民音頭」を皮切りに、「里の秋」「もみじ」「赤とんぼ」などの季節の唱歌、そして古代黎明の地・藤井寺にちなんだ「遣唐使の歌」、最後は市民まつりの愛称となった「しゅら」を歌った「修羅慕情」と、短い時間でしたが市民の皆さんと楽しいひとときを過ごすことができました。

このイベントにご協力をいただいた大正琴「琴修会」の皆さん、「NISE！藤井寺バンド」の皆さん、「道明寺レディス」の皆さん、そして多くのスタッフの皆さん。この場を借りてお礼申し上げます。

(武藤)



☆テントブース

「手作りおもちゃ」「紙芝居」



手作りおもちゃは牛乳パックの底に色をぬり、タコ糸を通して作る「ぶんぶんゴマ」と、CDにカラフルなシールをはった「キラキラゴマ」の2点です。男の子はぶんぶんゴマが気に入って得意そうにまわし、女の子はキラキラゴマが嬉しそうでした。「民話の紙芝居」は保護者同伴の子供さんが多くこられ、ステージのマイクの音が大きくて、紙芝居の語り手の声が聞こえにくいにも関わらず、最後まで目をくりくり動かして熱心に見てくれました。(菱木)

待望の誘導旗 お披露目

観光ボランティアの会の念願であった誘導旗ができあがり、今回のステージで初披露しました。藤色地に濃紺の字体を染めたシンプルで上品な旗です。市のカラーと会の方針「おもてなし」の心をこめています。

(近藤)



フィールドワーク 道明寺東小学校(5月21日)・道明寺南小学校(5月31日)

五月晴れの下、各校6年生2クラス60名づつのフィールドワークが行われました。

道明寺東小学校は、地域の歴史的文化遺産や遺跡に直接出向き、触れて学ぶことの大切さを重要視され、今年で3回目になりました。道明寺南小学校は、今回初めての企画で、まずは校区内の寺社や古墳を私たちと見て歩くという目的で行われ、特に天満宮や道明寺では、菅原道真公にまつわる地区の説話「鶏を飼わない里」や「道明寺糰」のお話を聞いていたので、より興味をもったようでした。

両校共、生徒たちの質問も多く、自分達の住む地域の歴史に深い関心を持っていることを感じました。

私たちも小学生と共に楽しい1日を過ごす事ができました。(芳尾)



天満宮で説明を聞く



いただいた お礼の色紙

みなみかわちガイドネットワーク・ウォーキング 「古寺・名刹を巡る」 5月30日(日)

「柏原の郷土史を探る会」と当会の共催で藤井寺市と柏原市のご案内をしました。

当日の朝、暑さもしのぎやすく、ウォーキング日和で120人もたくさんの方の参加がありました。



安福寺

天満宮を起点として、道明寺尼寺の法話を聞く班とウォークのみの班に分かれるなど、参加者の希望に沿った案内となりました。国府遺跡から松永白州記念館の途中、郷土史家の野中先生のご配慮で大山咋神社の説明をいただきました。玉手橋で柏原のガイドに引き継ぎ、大阪夏の陣の戦場跡を訪れたり、普段は入れない珂億建て安福寺の本堂でご住職のお話などを聞かせていただき、印象深いウォークになりました。古墳時代前期の古墳が連なる玉手山から、同じく中期の古市古墳群を一望できる景色に疲れも忘れるほどでした。(吉田)

第2次 大阪・奈良歴史街道'ルーウォーク開会式

10月11日(月)

「遣唐使の道」をたどる開会式と、第1回「平城遷都1300年祭会場めぐり」が体育の日に快晴の下開催されました。今回は3年半をかけ、奈良より住吉大社に向かう16回の'ルーウォークで、我が藤井寺市には第14回目の2013年10月27日(日)に行く予定です。開会式は平城宮跡交流広場「まほろばステージ」に於いて行われ、地元都跡小学校マーチングバンドの特別演奏で始まり、10時より吉良実行委員長等の挨拶や、新しく作られたフラッグの引き渡しがありました。最後に海龍王寺の石川住職(初代は僧玄肪)による「旅の安全祈願」がおこなわれました。当会はゆるキャラ「まなり君」を先頭に、中西会長はじめ10名が参加し、祝日で大勢のお客さんのなか朱雀門まで行進、展示されている遣唐船の前で記念写真を撮りました。

「平城宮跡会場巡り」は総勢350名の参加があり、約1時間半のウォークを存分に楽しんだ1日となりました。(小野)



秋季ウォーク 「秋の河内平野古刹めぐり」

10月31日(日)

受付を始めて30分、お客さんの数はやっと10名をこえたところ。台風の影響で順延となったことが災いしたものか、それとも午後からの雨天予報のせい。春のウォークに比べなんと雨が多く、黄色のユニホームだけが目立つ。第一陣、定刻に、新調した誘導旗を持ってスタートするも、後に続くお客さんは少ない。このような時はより一層お客さんと親しく楽しめるものと頭をリセット。午後から雨になったが、途中リタイヤのお客さんも少なく、メンバーの笑い声も絶えないまま、本降りの天満宮で解散となった。(岩崎)



第15回 ふくしまつりに参加して

11月7日(日)



絵 大久保 作

第15回健康福祉まつりは「来て見て笑ってふくしの輪」をキャッチコピーに福祉の啓発、ボランティアの活動発表、各種団体の交流を目的に開催されました。私たちのブースはバザーなどの入口という事もあり、紙芝居は2回上演し、ぬりえでは約150名、どちらも多くの方に楽しんで頂き、快い疲れを感じた1日でした。(安田)



地区との交流会

林1丁目町内会で毎年開催されている餅つき大会に、昨年に続いて今年も当会の有志が参加して、民話の紙芝居やぶんぶんゴマなどで子供さんと一緒に楽しい時をすごしました。

今後もこのような地域と連携した行事に参加しようと思っています。(堅田)



歴史探訪 「船橋のラシャ鋏」

江戸時代、大和川付け替えて農地を失った村人の生計維持のため、船橋町の野中貞信氏の先祖が、堺で鍛冶技術を習得し、祖父の代に親方となって帰郷し、弟子達と鍛冶屋を営んだ。最初は生け花鋏、後、洋風化に伴いラシャ鋏を作った。村には30数軒の鍛冶屋があったが、戦後の機械化におされ、現在鍛冶屋はない。

野中氏は今でもそのラシャ鋏を愛用されている。(近藤)



歳時記 「佐藤家の雛祭り」

雛人形収集家佐藤禎三氏宅で毎年「雛人形展」が開かれています。100体余りの雛人形の中には、江戸時代から近年に至るまでと時代を感じさせます。

素材も土・紙・ガラス・布・水引き・木・玉子の殻...と様々。大きさも特大から極小サイズといろいろあり、訪れた人を楽しませてくれます。雛の世界へ魅了してくれる絢爛豪華な「雛人形」を是非ご覧になってください。

●毎年3月3日とその前後に開催●

(菱木)



「百舌鳥・古市古墳群」

世界遺産暫定リスト登載決定を受けて

平成22年10月6日、「百舌鳥・古市古墳群」と「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」の二つの資産の世界遺産暫定リスト登載が日本政府として正式に決定いたしました。

これから本当の世界遺産登録への活動が始まります。「百舌鳥・古市古墳群」を世界遺産登録へと進めていく本当の大きな力は、地元の皆さんが、古市古墳群に愛着と誇りを持ち、大切にしていこうとする気持ちを深めることにあります。近くにありすぎて当たり前になっているこれらの資産を再認識し、愛着をもって資産の保全へと進めるためには、観光ボランティアの皆さんが行っているような地道な活動こそが必要不可欠だと思います。

私達も皆さんと共に、もっと多くの方に「古市古墳群」の素晴らしさを認識してもらおう場をつくってまいりたいと考えています。

今後とも世界遺産登録に向けて、よろしくお願いします。

藤井寺市教育委員会世界遺産登録推進室 山田幸弘



野中宮山古墳

(写真提供：藤井寺市教育委員会)



はざみ山古墳

百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録に向けて(6)

◆ 野中宮山古墳

3段で築成され、一重の濠を有する墳丘長154mの前方後円墳で、南側に長さ27m・幅15mの巨大な造り出しを備え、この部分から水鳥をはじめとする多くの形象埴輪が出土した。5世紀前葉の築造と推定される。尚、墳丘には、多くの桜が植生され、春には人々の目を楽しませてくれる。

◆ はざみ山古墳

一重の周濠が廻る墳丘長103mの前方後円墳で、3段に築成され、墳丘斜面には葺石が施されている。直径50cmに達する大型円筒埴輪が樹立し、製造時期が窖窯焼成導入期のものなので、古墳築造期は5世紀中葉に当たると考えられる。(寺田)